

出席 ・ 自由

レポート・倉本美穂子 作成・かやみちこ

程よい力加減の  
シャンプー 肩マッサージ  
つい うとうと  
眠くなる  
美容院でのひととき

懸川千恵子

女性ならではの歌ですね。お茶も出たり「今日もゆつくり休んでくださいなんて言われて癒されます。美容院ならでの気持ちよさが伝わって共感の歌。  
若い美容師さんのマッサージが、最高に気持ちいいです！

独り暮らしの  
始めての夜  
タイマーの呼び掛けに  
ステンレスの流しが  
「ポコン」と返事をした

杏の花見

発想が素晴らしく最高点を入れた。独り暮らしで、無機質なステンレスの音にも反応する心細さ寂しさがとてもよく出ていますね。  
独り暮らしを始めた娘から、鍋がないのでポットでお湯を沸かし流しに捨てたら、「ポコン」と言ったと電話が。。。可哀想になつて涙が出ました。

ひなだんの前で  
なぜか  
むずかる孫  
幸せと  
すこやかを願う

空田 和子

お孫さんに対しての気持ちがよく表れていますね。孫と大人の思いにズレがあるけど、幸せを願っている様子が伝わります。  
十一月に女の子の初孫が生まれ、頑張つて雛壇を買いました。夫婦共々、心から孫の成長を楽しみにしています。

昼間でも  
明るく灯ともす  
モデルハウス  
声弾ませる  
若い家族

山田 正巳

絵に描いたような幸せそつな若い家族を想像した。微笑ましい歌で幸せを頂いたような気持ちです。**騒ぐ人は買わない。買う人は真剣にチェックする。不動産業（より）**  
散歩コースに牛田モデルハウスがあり、中から賑やかな声が聞こえてきて「いなあ」と思ったことを詠みました。

穏やかな  
小春日和に  
包まれて  
まどろんでいる  
遺影の君も

鈴野 鳴道

一、二行に春を待っている気持ちと、四、五行に年月を経て作者の気持ち吹っ切れた様子が伝わる。田舎の縁側で陽を浴びている穏やかな光景が浮かびました。  
夫が若くして逝ったので、背広姿の堅苦しい写真だけでなく、三月の暖かい日にカーテンを開けると、陽が差して写真の表情があなたかく感じられて。

芽ぶいた土手  
走って笑って  
くつ飛ばし  
今日も  
仲良く帰る道

山根 房子  
(同五席)

子どもの頃の学校の帰り道を思い出した。通学路もなく、自由に伸び伸びしていたが、今は出来なくて可哀想ですね。忘れられた日本の光景です。  
題詠「芽」と間違えて作りました。芽から土手を思い出して。。。

同窓会は  
故郷の温もり  
懐かしい顔  
懐かしい声  
集い会えた幸せに感謝

和泉 圭

同窓会は、自分のリズム。自分を飾らず出せる場所ですね。老人性うつ病が流行るが、同窓会はストレス解消には打ってつけの場。五行目に共感。  
高校の時の同窓会。三十四、五年振りだけど、十八歳に戻り、山田先生を囲んでとても楽しかったです。五行歌会でも、偶然一緒にになり、縁に感謝です。

競うように  
和するように  
春咲く  
定め  
花のころは

ゆづゆう  
(同五席)

平安時代を思い出させるような歌。花も周りとの調和を計りながら咲くんですね。人生にも通じるところがあるような感じで、後三行の流れがいいです。花の少ない時期は目立つが、春はたくさんの花が咲いて競っているのに調和している…。人とは違うような気がして詠みました。

時計の針のように  
出会いと  
別れを  
くり返しながら  
生きる旅路

野 菊  
(一席)

色々な人生、時計の針の重なり例えてあるのが上手いなあ。人生を旅路に置き換えて詠まれているところが好きです。哲学的な雰囲気ですね。時計のような簡単なもので人生を詠むのはどうかと思いましたが、出会いと別れを繰り返しながらも、前進していける旅路にしたいです。

厳冬で  
ひとしお待てる  
花の春  
しおりを見ては  
旅の夢

住吉 邦子

リズム感があっていいなあ。いかに厳しい冬だったかわかりますね。自分は地図を見て世界旅行と夢見るが、しおりで夢を見られて幸せな人ですね。旅行会社のパンフレットを見て作りました。桜の開花予想がわからないです…。(苦笑)

楽しそうな顔  
嬉しそうな声  
明るい仕草  
ふりをすることは  
なんと苦しいことが

いくたあつむ  
(三席)

人にはそう見えるがしんどいことですね。心の葛藤を上手く詠まれている。ふりをしなければ生きていけないこともあり、いつかふりでなくなればいいですね。生きていくためには明るく、出来ない人はふりでもいいからして生きていかなければと思った。ふりも人生といふことですね。

やさしい心の  
種をまき  
世界中に  
平和の  
芽を花を

榮 子

病気をした時の周りの方たちの優しさがうれしかったことを思い出し惹かれた歌。明治生まれのおぶくろが、いつも言っていた言葉を思い出しました。孫が優しい子に育ってくれた。そんな優しさが、家庭から社会へそして世界へ、種蒔きのように拡がってゆけばいいなあ。と思って歌。

美男子たれ  
私の息子よ  
いつかは  
大樹の  
幹となれ

中塚 育子  
(次々点)

すごく惹かれた歌。最高点を入れました。二行目の呼びかけ、母親の思いがよく伝わります。面白いほれぼれする、元気をもらうような歌でとても好き！息子が二十七歳になり、パスポートに書いてエールを送った。社会人になる年に夫が亡くなり、息子の旅立ちを夫の気持ちと一緒に読みました。

今日から 二階で寝るぞ  
あ そう  
テレビに 夢中  
いつしか  
二人の ひとり

江中 共治

定年後の主人がちらっとよぎりました。一人より寂しい一人。反応のない情景が見え、独り身の自分には、二人揃っておられるのに、もったいない話。ワンフロアの我が家。付かず離れずがいいが、生きる時も独り、死ぬときも独り。泣きながら作りました(笑)

まるやかな  
つぼみが  
ふつふつと  
わきあがる  
花びらのほほ笑み

こころ

風も  
さよならって  
泣いているから  
思い切って  
冬仕舞い

かやみちこ  
(次点)

食器を選ばず  
主役でもなく  
脇役の  
木の芽  
香りを楽しむ

原 ヤス子  
(同五席)

待ってた春が  
今日はラ、ラ、ラ  
明日はうふ、ふ  
ほら、ほら、  
スキップで

福原 祥子

古いセーターが  
ほるほる  
解れるように  
切れ間なく続く  
女たちの会話

倉本美穂子  
(二席)

ありがとう  
こない言葉  
感謝の言葉  
みんなで交わして  
素敵の輪

荒田 豊

蕾のまるやかさ、ふつふつと開いていく花の様子をと  
ても上手く表現されていますね。穏やかな春の到来を  
喜ぶ気持ち伝わってきます。四、五行が好き。  
苦勞して作りました。精神的なことを詠みたかったの  
ですが…。毎日花を見続けて、私の好きな歌になり  
ました。

不思議な歌だなあ。冬にまだ未練があるのかな？  
寒かったり暖かだったり、毛布を一枚にしたり二枚に  
したりの我が家のことを見られて詠まれたような感じ  
です。  
冬物をどっしよつか迷っていたけど、思い切って仕舞  
いました。

木の芽を上手く詠まれているなあ。毎年、たらの芽  
を取りに行くがこのお歌で今からその楽しみが湧い  
てきました。木の芽も喜んでますね。  
木の芽だけの料理ってないですけど、香りで楽しめる  
木の芽が大好きです。来月のお題「芽」を詠んでしま  
いました。

春を言葉だけで表現されていますね。躍動感のある  
楽しい歌。春を謳歌されている様子がよく伝わります。  
句読点の多いのがちょっと気になります。……  
三月四日、あまりによいお天気だったので歌に。皆さ  
んのお歌を読んで反省しております。

男性の目から見た歌？女は二人でなくてもよく喋る  
よ。女性の会話が止めどなく続いている様子がよくわ  
かる。若くはない女性の上品な会話のようです。  
作品展の受付をした時のことを詠みました。お客  
さまが来られない時、女三人ですらすらと、途切れる  
ことなくお喋りを楽しみました。

こない言葉ってないですよ。共感の歌です。「あ  
りがとつ」「すみません」なども皆がこの言葉を発  
すれば幸せの和が拡がるのではないでしょうか。  
母がいつも言っていた言葉です。ワーワー口を使っていた  
頃の古い歌が出てきたので、出席歌にした。

歌のみ ・ 自由

沈む夕陽の  
黄金色の  
残照  
明日も天気と  
約束している

森廣 房子

夕焼け小焼けの歌が出てきそうなお歌。明日も天気にしておくからね。と夕陽が約束してくれたような。四行目の「と」はちよつと不似合いかな？私には歌に出来なかつた風景です。

五行歌の  
テーマを考え  
日が暮れる  
そんな私が  
一番 自由

田中カズエ  
(四席)

好きなことに十分な時間が取れるのは羨ましい限り。テーマが浮かばなくて苦労している人が多い中、作者はそれを自由な時間だという。素晴らしい生き方に拍手。

フルフルと  
揺れてパンジー  
つぶやいた  
蝶と一緒に  
私も舞いたい

山本 和恵

私も舞えたらいいなあと、春ですもの。春は天気はどうかあれこんな気持ちにさせてくれますね。春は身も心も爽やかです。

隣近所が  
集まって  
我が家の花芽  
自慢して  
話の花が咲く

安田 露子

花がかけてあるのが面白い。最近にない近所付き合い、花自慢の花が咲くなんて悪口でなく平和でうらやましいですね。

行く先の  
自分の  
老いを  
垣間見た  
病院の待合室

富垣 豊子  
(五席)

病院は更に病人を作り出す所。病にしのれた老人をみてこれから先を思いわびしい気分になられたのか？ 現実的なお歌で、身に沁みますね。

出会う場面の  
ひとつひとつに  
真心を  
込めないと  
人生が嘘になる

小原さなえ

「一期一会」大切にしたいもの。感銘しました。どんな人生も本物の幸せになりますように。自分も心が豊かになります。丁寧に生きるって簡単そうだけど、難しいことだなあと。

桜の芽  
はかりにかけて  
楽しくハズム  
花一輪の  
春を知る

藤本 春雄

リズム感があっていいですね。コートを脱ぎ、桜もかすかにピンク色。目の前にした春に、ウキウキした気分がよくでてくるなあ。

どこまで

好きかよりも

どこまで

許せるか

これが長続きの秘訣よ

紫陽花

(同一席)

若い人にはこういう気持ちがあるかな？でも、許せるまでの道のりは長いです。難しいことです。厳しかった母の言葉が浮かびます。このように明るく前向きに生きたいと……。

春 先きがけて

おお寒いのに

たんぼぼ一輪

焦る 気持ち

私と いっしょだね

若井もとむ

五行目のまとめがいいですね。たんぼぼ一輪あせって咲いている気持ちにあげなげで、いじらしい。私といっしょだね」に共感です。

街へ行くバス

新道走れば 超速いのに

旧道回りは トロトロ

時間のかかること！

レトロバス・・・と諦めよう

ゆい 雅子

旧道はおおむね生活道路。各駅停車、鈍行が走ります。その日の気分を感じ方が違う、イライラしないでトロトロを我慢しようね。家の近くから乗れるのだから。

満天星

星に見立てるとは

にくい花

垣根を色どる

ドウダンツツジ

柴 まさこ

わゝ初めて知りました。垣根から宇宙を見上げる大きな歌ですね。白丁花とも言つドウダンツツジ。言い得て妙ですね。白丁花 初めて知りました、私。

ハーブ踏みしめたら

香りたちこめ

枕草子の

牛車に

タイムスリップする

森 鈴

ハーブから枕草子なんて、しかも香りをかけている心にくさに加点了。生活のゆとりのようなものに羨ましさを感じました。

今朝の雪

これは異常気象？

奈良では

春のおとずれの

お水取り

丸矢 信子

春の雪は印象深くきれい。暦は春なのにどつなっているの？って思いますよね。お水取りがすまないと春がこないって本当ですね。

風邪がみ

今晩は

お日様に抱かれて

寝ようと

毛布を干した

小泉 秀子

(一席)

お日様に抱かれて・・・可愛くて優しい。お日様の匂いの沁み込んだお布団に勝るものはないです。お日様の葉で早く風邪が治りますように。

うぐいす鳴く  
ホーホケ  
まだまだうまく歌えない  
あともう少し  
ホーホケキヨ

大上 博子

以前あった林もなくなり鶯の声も聞けなくなつてしまつて、懐かしいです。だんだん上手になる鶯と一緒に暖かさもやってきましたね。

波のように  
寄せたり退いたり  
期待させては  
逃げてゆく  
春日和

岡部亜矢子  
(三席)

寒暖を繰り返しながら春はやってくる。不安定な季節をよくあらわしています。今年は寒暖が激しいですね。人生も同じだと言つことかな。

ばあーちやーん  
全身で駆けてきた  
みかちゃんを  
全身で抱き締める  
この幸せ

よ 志

好きですね、こんな線の太い歌。お孫さんとの触れ合いがず〜んと響いてきます。幸せですよ。四行目の「全身」、気持ちはわかるが言葉を変えてみた方が印象も良くなるかな？

やる気と  
行動力に  
後押しされて  
大工の仕事も  
気分は達人

藤本フミエ

やる気があれば何でもできる、たとえ下手でもやり遂げた気分は悪くないはず。前向きでいいですね。大工仕事をしてくださるご主人、羨ましいです。

命  
いつか消える  
怒り悲しみ  
笑つてとばそ  
ワツハツハ

道原紀代子

五行目は人柄か。とても前向きで命は大切に、ある限り。前向きに生きる姿勢が共感できる。苦を樂にかえる笑いに拍手。

今だけ  
本命  
小さな包  
孫娘まごのチヨコ  
ありがとう

惚け老人

いつまでの本命の座か、とりあえず今の幸せに感謝ですね。もしかしてお返しを楽しみにしているのでは？と。私も早くこんな心情になってみたいです。

2  
1  
夫婦つて  
傍に居てくれる  
だけでもいいのだと  
やつと悟つて  
今は おだやか

さくら  
(同二席)

長い間連れ添われた夫婦ならではの味、穏やかな悟りの世界。まだ悟れない私には教訓となるようです。かなわない立場からすると、とても羨ましい……